

Ⅶ 分科会の提言内容・趣旨及び分散会の視点

第Ⅰ群 学校経営

分科会 A

A 学校経営・評価

提言内容

よりよい社会を創る人材の育成を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定と創造的な学校経営の推進及び評価の工夫に関する提言

分科会の趣旨

現在の社会は、知識基盤社会や高度情報化・グローバル化の進展とともに、少子高齢化、地域社会や人間関係の希薄化など、様々な課題に直面している。このような時代にあって、学校教育へのニーズも多様化・複雑化してきており、これからの学校には、変化が激しく予測が困難な時代を子どもたちが自信をもって未来を切り拓き、様々な他者と協働して課題を解決し、より良い社会を創り出していくことができる資質・能力を育成することが求められている。

そのために、校長は、これからの時代に求められる資質・能力を明らかにし、その育成を図る学校経営ビジョンを策定した上で、全教職員はもとより、家庭・地域とも目指す児童像・学校像を共有できるようにしながら、指導性を発揮して実効性のある取組を推進し、活力ある学校経営を行うことが求められている。

また、学校評価においては、校長は、子どもたちの実態や学校の課題を踏まえるとともに、これからの時代に求められる資質・能力を見据えながら重点目標を示した上で、目標の達成状況や、そのための具体策の取組状況等を的確に把握し、組織的・継続的に評価しながら、学校教育の改善に活用していかなければならない。その際、学校評価及び学校運営への一層の保護者や地域住民の理解と参画を促進していくことも重要である。

本分科会では、よりよい社会を創る人材育成を見据えた学校経営ビジョンに基づく創造的な学校経営とその推進の方向性をより確かにする学校評価について、具体的方策を明らかにし、提言する。

第1分散会の視点

これからの社会を担う人材の育成を見据えた明確なビジョンの策定と、協働性を高め活力ある学校経営の推進

【研究協議において共有したい事例】

- これからの時代に求められる資質・能力を明らかにし、その育成のための重点目標や具体策を明示した学校経営ビジョンの事例
- 地域とともにある学校の実現に向け、学校と家庭・地域が目指す児童像を共有し、協働性を高められるようにした学校経営ビジョンの事例
- 学校経営ビジョンの具現化のため、教職員の共通認識を高め、組織的に取り組んだ事例
- 校長が役割を明確にして指導性を発揮し、活力ある学校経営を目指した事例

第2分散会の視点

学校づくり・人づくりを確かにする学校評価の工夫

【研究協議において共有したい事例】

- 学校経営ビジョンとその推進の方向性をより確かなものにするため、学校評価を活用した事例
- 学校の重点目標の達成に向け、学校評価の実施方法や活用方法を工夫した事例
- 目標の達成状況や、その具現化のための取組状況を的確に把握し、マネジメントサイクルを通して学校評価を組織的・継続的に行った事例
- 保護者や地域住民の学校理解や学校運営参画を促進するため、学校評価を工夫した事例

B 組織・運営

提言内容

学校経営ビジョンの実現に向けた組織の編成と円滑な運営に関する提言

分科会の趣旨

今日の知識基盤社会において、情報化やグローバル化の進展とともに、少子高齢化、家庭や地域の教育力の低下など、学校を取り巻く社会的変化は、ますます複雑化・多様化してきている。それに伴い、学校や教職員だけでは解決できない課題が増えてきており、学校に求められる役割の拡大と併せて、教職員が子どもと向き合う時間を確保することが大きな課題となっている。

このような中、校長は、家庭・地域と共通理解を図りながら学校教育を推進するとともに、確固たる教育理念のもと、教育の不易と流行を見極めた上で、未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンを示す必要がある。校長が、学校経営ビジョンを実現させるためには、まず、教育課題を全教職員で共有し、目標実現への具体的な手だてや道筋を明らかにしなければならない。そして、課題解決に向けて同じベクトルで、チームとして取り組むことができる活力ある組織を創り出すことが重要となる。また、教職員一人一人の学校経営参画意識の高揚を図るとともに、教職員がもつ資質・能力を引き出しながら組織を積極的に運営していかなければならない。

さらに、教員が子どもと向き合う時間を確保するため、校長がリーダーシップを発揮し、全教職員でこれまでの学校運営を根本から見直し、前例踏襲にとらわれず改革を進め、業務の改善・効率化に向け、積極的に取り組んでいかなければならない。このことはつまりは、学校における働き方改革の推進につながるものである。

本分科会では、校長が明示した経営ビジョンを確実に実現するための効果的な組織運営と子どもと向き合う時間を生み出す組織の編成と運営の工夫・改善に関する方策について提言する。

第3分散会の視点

学校経営ビジョンの実現を目指した効果的な組織マネジメントの工夫

【研究協議において共有したい事例】

- ・校長が学校経営ビジョンの内容を明確かつ具体的に提示し、活力ある学校経営を目指した事例
- ・学校経営ビジョンの具現化のため、教職員の共通認識を高め、チームとして取り組んだ事例
- ・教職員のキャリア段階に応じた学校経営参画意識の高揚を図りながら、組織力を高めるために人材育成に取り組んだ事例
- ・学校経営ビジョンの実現のため、家庭や地域社会と教育課題を共有しながら連携を推進した事例

第4分散会の視点

教職員が心身ともに健康で、効果的な教育活動を持続的に行える状況を作り出すための学校の働き方の改善

【研究協議において共有したい事例】

- ・学校の働き方改革の視点に立って組織運営の効率化を図るため、校務分掌の根本的な見直しと再編に取り組んだ事例
- ・業務改善・効率化を図るため、校長がリーダーシップを発揮し、前例踏襲に陥りがちな教職員の意識改革に取り組んだ事例
- ・研究や研修を通して同僚性を高め、職務向上を図ることで教職員のやりがいを醸成し、多忙感や負担感の緩和に取り組んだ事例
- ・「チームとしての学校」の実現に向け、教職員及び専門スタッフや支援人材の役割分担や連携の在り方を工夫した事例

C 知性・創造性

提言内容

豊かな発想力や創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に関する提言

分科会の趣旨

近年、グローバル化、情報化、少子高齢化、技術革新、その中でも人工知能については飛躍的な進化を遂げており、社会構造も急速に変化している。このような将来の予測が難しい社会であっても、社会の加速度的な変化を受け止め、未来の社会を切り拓いていくために必要な資質・能力を確実に育むことが学校教育に求められている。これまでも学校は、将来を担う子どもたちに、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育成し、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組んできた。今後さらに、子どもたちが個性や価値の多様化を受容しつつ、多面的に考えられる発想力とそれを基に新しいものを創り出していく創造性を身に付けさせることが求められている。

そのために、校長は、基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を育成するとともに、社会と連携して、子どもたちの豊かな発想力や創造性を育むことができる「社会に開かれた教育課程」を編成し、やがて実社会において、それまでの学校教育の実績や蓄積を生かして未来の社会を切り拓いていくために必要な学力を確実に育むことが求められている。

また、豊かな発想力や創造性を育む教育を推進するために、各教科等の学習において、主体的・対話的に関わり、他の人と共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業の改善を推進するとともに、子ども、学校、地域等の課題を明確にし、教科と領域における強みやよさを生かしながら、協働型の学びや課題探究型の学びなどを、これまで以上に進めていかなければならない。

本分科会では、豊かな発想力や創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善について、具体的な方策を明らかにし、提言する。

第5分散会の視点

未来社会を拓いていくための学力を育む教育課程の工夫

【研究協議において共有したい事例】

- ・子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を明確にした教育課程の編成と実施・評価・改善に取り組んだ事例
- ・教育課程に基づき、組織的・計画的に教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立した事例
- ・子どもたちの現状等に関する調査や各種データ等を活用し、PDCAサイクルを確立して教育課程を編成・実施し教育の質の向上を図った事例
- ・家庭や地域社会と連携・協働し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図った事例

第6分散会の視点

豊かな発想力や創造性を育む教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・新しい時代に必要となる資質・能力を育むため主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行った事例
- ・キャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことを目指した事例
- ・豊かな発想力や創造性等を育むため、地域の教育資源を有効に活用した体験活動の充実を図りながら教育活動を推進した事例
- ・「言語能力の確実な育成」「理数教育の充実」「伝統や文化に関する教育の充実」等を重点として、特色ある教育課程を実施した事例

D 豊かな人間性

提言内容

ともに学び続け、心豊かに生きる子どもを育てる教育課程の編成・実施・評価・改善に関する提言

分科会の趣旨

Society5.0が目指す超スマート社会では、サイバー空間（仮想）とフィジカル空間（現実）が高度に融合し、経済的発展と社会的課題が解決・両立すると言われている。そのような人間中心の社会においては、誰もがより心豊かに生きたいと願い、ますます豊かな人間性を育むための教育・人材育成が求められることになるであろう。

人権教育においては、多様な価値観が混在する社会の中で発生する、様々な人権侵害の問題を受け止めながら、個人の尊厳や自他の生命を大切にすることなど、人権感覚やコミュニケーション能力を身に付けるとともに、基本的人権を尊重する態度の育成を、より一層進めていかねばならない。

道徳教育においては、子どもたちの倫理観や規範意識の低下、いじめの問題等が課題としてあげられる中、思いやりの心を育み、いかに豊かな心をもって共生社会を形成していくか、道徳教育の質的改善を、より一層進めていかねばならない。

これらを推進するために必要な教育の在り方を具現化するのが、各学校における教育内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

本分科会では、ともに学び続け、心豊かに生きる子どもを育てるために、校長の明確な方針の下、これからの社会を見据えた学校教育の一環として、人権教育や道徳教育の全体計画を作成し、全ての教育活動との関連を図りながら、教育課程を編成・実践・評価・改善していく上で重要な点について具体的な方策を明らかにし、提言する。

第7分散会の視点

ともに生きる社会をつくる人権教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・人権尊重の精神の涵養を目的に、組織的、計画的に人権教育が推進されるよう、推進体制の整備・充実を図った事例
- ・子どもの発達段階に即しながら各教科等の特質に応じて人権尊重の理念の理解を深めるため、教育課程を編成・実施・評価・改善した事例
- ・人権教育に携わる指導者としての資質・能力を高めるため、様々な人権問題等についての理解や指導方法に関する研修を工夫した事例
- ・互いの人権が尊重される良好な人間関係を築くための学級経営の充実に向け、校長が役割を明確にして指導性を発揮した事例

第8分散会の視点

豊かな心を育てる道徳教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・道徳教育と全教育活動との関連を図りながら教育課程を編成・実施・評価・改善した事例
- ・多面的・多角的に考え、生き方について考えを深める「特別の教科 道徳」の授業改善に向け組織的に取り組んだ事例
- ・いじめの防止に向け、道徳の質的転換を図り、道徳教育が効果的に実践されるよう、校長が役割を明確にして指導性を発揮した事例
- ・道徳教育の充実のため、家庭、地域社会及び異校種間の連携に取り組んだ事例

E 研究・研修

提言内容

学校教育力を高める校内研究・研修に関する提言

分科会の趣旨

現代社会においては、国際化・情報化が一層進み、特に、超スマート社会（Society 5.0）の実現に向けて人工知能（AI）やビッグデータの活用などの技術革新が急速に進んでおり、こうした激動の時代を豊かに生き、未来を開拓する多様な人材を育成していく必要がある。そのため、これからの学校では、子どもたちに多面的に思考するための発想力や創造性を身に付けさせるとともに、子どもたちが自らの手で人生を切り拓いていくことができる力を学校全体で育むことが求められている。

こうした資質・能力をもつ子どもたちを育成するためには、確かな指導力を発揮できる教職員に支えられた学校づくりが不可欠である。校長には、校内研究・研修が校内の課題解決と教員個人の教育力を高める上で基盤となるものであることに留意し、その活性化に一層の指導性を発揮することが求められている。

確かな指導力を発揮できる教職員を育てるためには、日々の校内研究・研修が欠かせない。そのために、教員が互いに切磋琢磨し合う研究・研修体制が学校組織の中に位置づけられていることが重要である。また、キャリアステージに応じた研修体制や学校経営参画意識をもった教員の育成が必要である。校長自身も自らの資質・能力の向上を図り、確かな先見性や洞察力を身につけ、これからの学校づくりをリードしていくことが求められる。

本分科会では、教職員の資質・能力と学校の課題解決に向けた学校経営への参画意識を高めるなど、学校の教育力を向上させる校内研究・研修体制の確立と推進に関する方策を明らかにし、提言する。

第9分散会の視点

教職員の資質・能力の向上を目指した校内研究・研修体制の充実

【研究協議において共有したい事例】

- ・学校の教育力向上を目指す研究・研修を推進していく上で、校長が果たすべき役割を明確にして指導性を発揮した事例
- ・意図的・計画的に校内研究・研修を推進し、教員の指導力向上と研修体制づくりを図るため、校長が指導性を発揮した事例
- ・小中連携や教育委員会、外部講師、教育研究団体、他校等と連携を図った研究・研修を進める上で、校長が指導性を発揮した事例
- ・校長のリーダーシップの下、若手・中堅教職員の資質・能力の向上を図るための効果的な校内研修の実施や、研修体制の充実を図った事例

第10分散会の視点

自らのキャリアステージに応じた学校経営への参画を促す研修の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・キャリアステージを展望して必要とされる資質・能力を身に付け、参画意識を高める研修の推進のため、校長が指導性を発揮した事例
- ・キャリアステージに応じた指導や実践を伴った研修を通して教職員の力量や能力を引き出す研修における校長の指導性に関する事例
- ・組織での位置付けやキャリアステージの展望のもと、研修の成果を生かして積極的に職務を遂行させ、学校経営参画意識を高めた事例
- ・参画する機会を意図的にもつ等、学校組織づくりにおける校長の指導性に関する事例

F 人材育成

提言内容

これからの学校運営を担う若手人材やミドルリーダー・管理職の育成に関する提言

分科会の趣旨

近年の教職員の大量退職・大量採用等に伴い、教員の年齢構成や経験年数の不均衡が生じている。そのため、ベテラン教員から若手教員への知識や技能の継承、組織的な学校運営などに支障をきたし、学校全体としての教育力低下につながっている。また、学校が取り組むべき今日的な課題は複雑化・多様化している。それぞれのキャリア段階に応じ、教職員一人一人の資質・能力を高め、学校という組織の中で、自信と誇りをもって力を発揮できる人材を育成していくことが求められている。

こうしたことから、学校における組織力向上のためには、教育活動全体を見渡せる広い視野と実践的な指導力をもち、教員間や管理職との円滑な調整を図ることのできる中核的な存在となるミドルリーダーの育成が喫緊の課題となっている。

また、自律的に学び、将来にわたって資質・能力を高めていくことのできる若手人材を育成していくことも求められる。

そのために校長は、ミドルリーダーや若手人材育成に向けて、キャリアステージに即して意図的・計画的に取り組むことが急務である。

本分科会では、学校運営の核として活躍できるミドルリーダー及び将来の学校運営を担う若手人材育成のための具体的な方策について提言する。

第 1 1 分散会の視点

組織の一員として人間性や指導力を高めることのできる若手人材の育成

【研究協議において共有したい事例】

- ・若手教職員の人材育成のための環境づくり、日常的な関わり、校務分掌の工夫等に、校長が積極的に関わった事例
- ・若手教員の指導力向上に向けた校内研究や研修に、校長が指導性を発揮して取り組んだ事例
- ・若手教職員の悩みや困り感に対して、ミドルリーダーや管理職が組織的に対応した事例
- ・学校経営参画意識や意欲の向上を目的に、若手教職員の資質や能力向上を図った事例

第 1 2 分散会の視点

時代の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けたミドルリーダー・管理職の育成

【研究協議において共有したい事例】

- ・学校規模や教職員構成、教職員のキャリアステージに応じて校務分掌を工夫し、効果的なミドルリーダーの育成を図った事例
- ・教職員評価制度を有効に活用して学校経営の参画意識を高め、ミドルリーダー・管理職の育成を図った事例
- ・優れた指導力や使命感を兼ね備えたミドルリーダーを育成するため、具体的なビジョンを設定し、意図的・計画的に取り組を進めた事例
- ・研究、研修を通してOJTの活性化を図りながら、ミドルリーダー・管理職の育成を図った事例

G 学校安全

提言内容

危険予測・回避能力を高め、自ら判断・行動できる子どもを育てる安全・防災教育の推進に関する提言

分科会の趣旨

現在、学校安全の取組は、東日本大震災の教訓を踏まえ、子どもが主体的に行動する態度を育成することの重要性が改めて認識され、学校教育活動全体を通じた実践的な安全教育が推進されている。また、教育活動中の事故防止、不審者侵入への対応、通学中の交通事故や犯罪被害への対応など様々な安全上の課題に応じた対応が推進されてきた。

自然災害に目を向けると、近年各地で頻発している地震や気候変動に伴う極端な大雨や台風の大型化による風水害などにより、災害経験が少なかった地域でも多くの被害が発生している。

学校は、子どもたちの安全・安心を確保するため、過去の自然災害・事件事故の教訓を踏まえ、安全・防災教育の在り方について常に見直し、最大限の対策を講じる責務がある。しかし、予測しがたい事態も起こりうる今般である。そのため、子ども自らが判断し、自分の身を守るための行動をとらなければならない場面も想定される。

このような状況を踏まえ、学校は子どもたちが安全で安心な日常生活が送れるよう、安全・防災の知識を身に付けさせ、学習環境を整えるとともに、不測の事態に対しても、自らが判断し行動できるよう、危険予測・回避能力等を育成することが必要である。また、そのためには家庭や地域、関係機関と連携を図りながら、安全で安心な学校づくりを推進しなければならない。

このことから、校長には、学校の教育活動全体を通じた組織的・計画的な指導実践を基盤に、家庭や地域、関係機関との連携や協働を推進しながら、学校や地域における子どもたちの安全・安心を確保するための環境を整備することが求められている。

本分科会では、子どもたちの安全・安心を確保し、命を守り、危険を予測し回避する能力を育成する安全・防災の教育を推進するための具体的な方策を明らかにし、提言する。

第13分散会の視点

自ら判断・行動できる子どもの育成や地域、関係機関との連携・協働を図る安全・防災教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・自ら判断・行動できる子どもを育てるための安全・防災教育に係るカリキュラム・マネジメントの事例
- ・学校と家庭・地域が連携・協働した安全・防災教育の事例
- ・これまでの事件・事故、自然災害等を教訓にして、安全・防災に係る効果的で実践的な危機管理マニュアルとなるよう見直しを図った事例
- ・教職員の危機管理意識や実践的な危機回避能力を高めるための研修の計画・実施に関する事例

H 健全育成

提言内容

家庭・地域・関係諸機関と連携したいじめ防止対策等，健全育成に関する提言

分科会の趣旨

いじめは、子どもの心身の健全な発達に重大な影響を及ぼし、不登校や自殺などの背景ともなる深刻な問題である。社会的にも大きな問題として取り上げられることが多い。また、情報機器、ゲーム機等の普及により、子どもたちの遊び方が変化し、対人関係の希薄化に拍車をかけている。さらに、ネット依存、暴力行為、虐待等への対応も課題である。学校は、子どもの健全育成に向けて、教職員のいじめに対する危機意識の醸成、いじめや不登校の未然防止の取組を含めた組織的で適切な対応、情報共有、外部機関との連携等が求められている。

そのために校長は、子どもたちの健全育成に向けて理念とビジョンを示し、すべての子どもを対象に行ういじめの未然防止・早期発見のための取組を含め、組織的かつ実効性のある校内支援体制を整備する必要がある。

また、保護者や地域・社会の価値観が複雑化、多様化している状況を踏まえ、いじめ、不登校といった問題行動等に対して、学校だけで解決するには厳しい面があることを十分に認識する必要がある。「チーム学校」の考え方の下、保護者や地域はもちろん、幼稚園・保育園や中学校との連携、更には医療や福祉にかかわる外部機関とも適切に連携を図っていくことが大切である。

本分科会では、いじめや不登校への対応及びそれらの未然防止・早期発見に向けて、校内体制の整備と、学校が家庭・地域・関係機関と連携し、子どもの健全育成を推進していくための具体的な方策を明らかにし、提言する。

第14分散会の視点

いじめや不登校等に対応できる校内体制の整備

【研究協議において共有したい事例】

- ・いじめの未然防止，早期発見，早期対応，再発防止等のため，「学校いじめ防止対策基本方針」に基づき，効果的な組織的対応を行った事例
- ・子どもの抱える課題が複合的になってきていることに対応するため，生徒指導・教育相談・特別支援教育等，各分野担当の教職員や専門スタッフ相互の連携体制を整備した事例
- ・いじめや不登校の未然防止の観点から，居心地のよい学級づくりや自尊心・自己有用感を高める指導の充実に向け，校長が指導力を発揮した事例
- ・いじめや不登校等の問題行動への教職員の意識や対応力を高めるため，校長のリーダーシップのもと，研修の充実を図った事例

第15分散会の視点

健全育成のための家庭・地域・関係機関との連携

【研究協議において共有したい事例】

- ・基本的な生活習慣や社会規範の定着化を図るため，幼保小及び小中の連携強化を図った事例
- ・子どもの問題行動や虐待等，家庭に起因する問題への対応のため，専門スタッフの活用並びに医療機関，福祉関係機関等との連携に係る体制を整備した事例
- ・保護者，学童保育，地域との情報共有や情報発信，教育活動への直接的関与等，健全育成に向けて相互に連携を図り，成果が見られた事例

I 特別支援教育

提言内容

未来に向かって共に生きる子ども一人一人の教育的ニーズに応える、特別支援教育の充実に関する提言

分科会の趣旨

特別支援教育は、通常の学級を含む特別な支援を必要とする子どもが在籍する全ての学級において実施されるものであり、障害の有無にかかわらず、全ての人々が生き生きと活躍できる共生社会を形成していくための基盤となるものである。

障害者の自立や社会参加に向けては、いわゆる障害者権利条約への批准に合わせる形で、この10年間に、関係の法令が整備され、障害者に対する合理的配慮の提供や、不当な差別的取り扱いの禁止が義務付けられた。また、東京パラリンピックの開催に向けた様々な取組は、障害や障害者に対する社会全体の理解の促進につながった。

こうした社会情勢の下、学校は、特別な支援を必要とする児童ができる限り同じ場で学び育つ、インクルーシブ教育システムの構築を推進していくための体制整備に努めるとともに、家庭や地域、関係機関と連携して個別の教育支援計画を策定し、中長期的視点に立った支援を行うことなどを通して、児童の自立と社会参加を見据えた教育活動を日々実践していくことが求められている。

そのためには、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、通常の学級（通級による指導を含む）、特別支援学級、特別支援学校等の連続性のある多様な学びの場を保障するとともに、「交流及び共同学習」の機会を充実させることが必要であり、これらが機能するには校長のリーダーシップが欠かせない。

本分科会では、特別支援教育を推進する校内体制や、保護者・関係機関等との連携協力体制づくり、個々の子どもの教育的ニーズに応じた支援の在り方等について明らかにし、提言する。

第16分散会の視点

共生社会の実現に向け、学校・家庭・地域・関係機関との連携による特別支援教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・子ども一人一人の育ちと学びを支えるための校内支援体制の確立に向けた取組の事例
- ・校内はもとより、家庭や関係機関と連携して、特別支援教育の啓発を行い、広く理解・協力を得ることができた事例
- ・全教職員で取り組むユニバーサルデザインの学校・学級づくりについての事例
- ・子ども一人一人の教育的ニーズに応じるための合理的配慮を明確にし、多様な学び方や授業づくりに取り組んだ事例
- ・特別支援学校や特別支援学級等との交流及び共同学習の在り方を工夫し、インクルーシブ教育システム構築の具現化を図った事例

J 情報・環境

提言内容

急速に変化を遂げる社会環境や自然環境に対応し、これからの時代を主体的に生きる子どもを育む情報教育、環境教育の在り方に向けた提言

分科会の趣旨

近年の情報化の進展や科学技術の発展はめざましく、単に生活の利便性が高まるばかりでなく、Society5.0に向けて、社会の在り方自体が大きく変わっていきこうとしている。新学習指導要領において、小学校でのプログラミング教育実施が必修化された背景にも、こうした未来社会に向けた流れがあることを考えると、子どもたちが身に付けるべき資質としての情報活用能力は、より広義に捉えていく必要がある。

一方で、快適な生活と利益の追求は、地球温暖化等の問題をもたらし、不順な気候や自然災害の増加、自然破壊による生態系への影響など、地球規模での環境悪化を深刻化させ、将来の人類の生存と繁栄を脅かすまでとなっている。持続可能な社会を築いていくためには、次代を担う子どもたちが環境問題への関心を高め、問題解決に向けた実践的な態度を養う環境教育の充実が欠かせなくなっている。

校長には、「21世紀に求められる資質・能力」として、ICTを効果的に活用しながら、プログラミング的思考などの論理的思考力の育成につながる情報活用能力を子どもに身に付けさせ、現在の情報社会から更にその先の社会への展開を見据えて、主体的に生きる子どもを育む情報教育を推進していくことが求められる。

また、環境教育においては、子どもたちに環境に係る身近な問題から地球規模の問題にまで興味・関心をもたせ、持続可能な社会を築いていく担い手として、環境問題の見方や考え方を養うとともに、環境に働きかける実践力の育成に向けた取組の推進が求められている。

本分科会では、社会環境や自然環境の変化に柔軟に対応し、これからの時代を主体的に生きる子どもを育む情報教育・環境教育の在り方を明らかにし、提言する。

第17分散会の視点

未来社会を見据えながら、情報社会を主体的に生きる子どもを育む情報教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- これからの社会を生きていくために必要とされる情報活用能力について整理し、情報教育の体系化を図った事例
- ICT環境と情報ツールを効果的に活用し、プログラミング的思考などの論理的思考力の育成に向けて、授業実践の工夫を行った事例
- 教員のICT教育（含むプログラミング教育）に関するスキルアップや意識の差を解消するために行った校内研修等の事例
- 情報教育推進のために、地域（企業等）や関係機関等と連携して取り組んだ事例

第18分散会の視点

社会環境や自然環境についての課題意識や実践力を高め、持続可能な社会を築く担い手を育む教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- 環境教育の充実を図るために、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを推進した事例
- 日常生活と環境問題との関連を考えさせ、これからの社会や暮らしの在り方についての理解と行動力を高める指導を実践した事例
- 身近な地域の環境問題等を踏まえ、課題解決に向けた取組を、地域社会や中学校等と連携して組織的、継続的に行った事例
- よりよい環境づくりのために、地域の資源を活用した体験的で主体的な活動の事例

K 国際理解教育

提言内容

国際化の現状をしっかりと見据えた国際理解教育及び英語教育の実践と、その評価の在り方に関する提言

分科会の趣旨

急速にグローバル化が進展する中、観光立国を目指すわが国において、近年の外国人観光客の急増は、言語、衣食住に係る文化や生活習慣の違いを体験的に理解することにつながっている。また、地球温暖化や感染症など、地球規模の問題が深刻化し、これらの問題の解決には国際的な協力や国を越えた相互理解が重要である。

このような国際化の時代に育つ子どもたちには、世界の人々と力を合わせて、よりよい社会を創り上げていこうとする広い視野と、国際社会で共に生き、活躍するために必要な資質・能力を身に付けていくことが求められる。

そのために校長は、国際化の時代に適合したカリキュラムを編成し、学校経営構想に位置づけ、子どもたちが、より能動的でダイナミックに学ぶことを通して資質・能力を高め、発展させることができるよう導くことが大切である。

具体的には、国際化の視点から見た子どもたちの実態や学校が抱える課題、地域の特性等を踏まえながら、相互理解を深めるための活動を計画・実施・評価・改善するサイクルの中で、段階的に取組の範囲や質を高めていくことが重要である。

また、外国語教育を通して、国際共通語である英語の言語能力やコミュニケーション能力を育成するとともに、思考力・判断力・表現力の向上に努め、子どもたちが積極的に人と交流し、主体的・調和的に生きていけるようにするための指導の充実を図ることが必要である。

本分科会では、国際化の現状をしっかりと見据えながら、国際理解教育や英語教育を、学校経営構想にどう位置付け、実践し、評価すればいいのか、その具体的方策を明らかにし、提言する。

第19分散会の視点

国際化の時代を担う人材の育成を見据えた国際理解教育と英語教育の実践と評価の在り方

【研究協議において共有したい事例】

- ・国際化の時代に求められる資質・能力を明らかにし、その育成のための重点目標や具体策について教職員の共通理解を図り、組織的に取り組んだ事例
- ・より学びの深まる国際理解教育を展開するために、保護者や地域の人材、ALT等を、授業やその他の教育活動で効果的に活用した事例
- ・小学校6年間の発達の段階や中学校との連携を考慮するとともに、各教科の既習事項との関連を図りながら編成した外国語科・外国語活動の教育課程や、その指導実践に関する事例
- ・英語専科教員の配置校での効果的な活用や、地域人材のボランティアとしての活用の工夫により、外国語科・外国語活動の授業の充実を図った事例
- ・教職員の英語力と外国語科・外国語活動の授業力向上に向けた校内での研修実施において工夫改善を図り、成果が得られた事例

L 連携・接続

提言内容

地域の特性を踏まえ、家庭・地域等と連携した「地域とともにある学校」づくりや育ちの連続性を踏まえた異校種間の連携の在り方に関する提言

分科会の趣旨

家庭教育は子どもの教育の出発点であり、豊かな情操、基本的な生活習慣や規範意識、人への信頼感や思いやりの心の育成など、教育の基盤として極めて重要である。また、家庭を取り巻く地域社会は、子どもに対して様々な人との交流や社会体験、自然体験等の機会を提供することで、子どもの自立性や社会性の基礎を育む役割を担っている。

一方で学校教育は、未来を担う子どもたちを健やかに育むため、「地域とともにある学校」として社会教育と相互補完的に協力し合う関係のもと、学社連携・学社融合の推進に積極的に取り組んでいくことが求められている。

また、学校現場では、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」と呼ばれる基本的な生活習慣の未定着、自制心や規範意識の希薄化、集団活動への不適応等の課題が指摘されている。

これらの課題に対応するため、学校は、家庭や地域社会との連携とともに、小中連携や幼保小連携といった異校種間の連携を通して、子どもの育ちの連続性を意識し、相互理解を図りながら教育活動に取り組んでいく必要がある。

校長は、自ら積極的に中核的役割を担いながら、幼稚園・保育園や中学校、家庭、地域社会と連携・協働する仕組みを構築し、子どもの育ちの連続性を保障する円滑な接続を実現する学校運営を行うことが、ますます重要となっている。

本分科会では、子どもにとってのよりよい教育環境づくりのための「地域とともにある学校」づくりや、異校種間の連携の在り方において、校長はいかにリーダーシップを発揮すべきか、その具体的な方策を明らかにし、提言する。

第20分散会の視点

地域の特性を踏まえ、家庭・地域等と連携した「地域とともにある学校」づくりや異校種間の学びの連続性を重視した教育の推進

【研究協議において共有したい事例】

- ・学校、家庭、地域の三者が連携・協働した「地域とともにある学校」づくり（学校教育の「横」への広がり）の実践事例
- ・地域の人材を活用した教育活動や、公民館等の社会教育施設と連携・協働した教育活動により、指導の効果を高めることができた事例
- ・学校の実態や地域の特性を踏まえて、地域との連携の中核を担う教職員とその具体的役割を明確にし、組織的・継続的な連携体制の構築を図った事例
- ・子どもの育ちの連続性を考慮した異校種間の接続（学校教育の「縦」への広がり）のために、幼・保・小・中・義務教育学校のそれぞれが、互いの教育をより理解するとともに、課題を共有し、きめ細かな教育活動を行っている事例
- ・「目指す子ども像」「学びの約束、ルール」等を地域の異校種間で共有するなどして、一貫性のある教育目標等の設定や、教育活動の連続性の確保に努めた事例